

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6043540号
(P6043540)

(45) 発行日 平成28年12月14日 (2016.12.14)

(24) 登録日 平成28年11月18日 (2016.11.18)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 1 B 9/04 (2006.01)

A 4 1 B 9/04 E

A 4 1 B 9/02 (2006.01)

A 4 1 B 9/02 M

A 4 1 B 9/04 G

請求項の数 4 (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2012-178657 (P2012-178657)
(22) 出願日 平成24年8月10日 (2012.8.10)
(65) 公開番号 特開2014-34754 (P2014-34754A)
(43) 公開日 平成26年2月24日 (2014.2.24)
審査請求日 平成27年6月5日 (2015.6.5)

(73) 特許権者 505406486
トラタニ株式会社
石川県かほく市松浜ハ－6－4
(74) 代理人 100087653
弁理士 鈴江 正二
(72) 発明者 虎谷 生央
石川県かほく市松浜ニ－28－4

審査官 ▲高▼辻 将人

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ショーツ等の衣料

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下端に足繰り形成部 (15) を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成し下腹部を覆う伸縮性を有する前面覆い部分 (11) と、臀部を覆う伸縮性を有する背面覆い部分 (12) とを有する身頃 (14) と、前記前面覆い部分 (11) の下端 (16) と前記背面覆い部分 (12) の下端 (17) との間に配設され股間部を覆う身頃と一体型のまち部 (13) とを備えており、

前記身頃 (14) は、前記前面覆い部分 (11) の左右両側に前記背面覆い部分 (12) の左半分および右半分が形成されて、前記背面覆い部分 (12) の左半分の左側縁と前記背面覆い部分 (12) の右半分の右側縁との縫合部を有する筒状であり、

前記身頃 (14) は、前記背面覆い部分 (12) の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線 (S2) に沿って開いた展開状態において、前記前面覆い部分 (11) の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線 (S1) に対し、前記背面覆い部分 (12) の後中心線 (S2) が、全長にわたって前記後中心線 (S2) の下方延長線を前中心線 (S1) の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていることを特徴とする、ショーツ等の衣料。

【請求項 2】

下端に足繰り形成部 (15) を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成し下腹部を覆う伸縮性を有する前面覆い部分 (11) と、臀部を覆う伸縮性を有する背面覆い部分 (12) とを有する筒状の身頃 (14) と、前記前面覆い部分 (11) の下端 (16) と前

10

20

記背面覆い部分（１２）の下端（１７）との間に配設され股間部を覆う身頃と一体型のまち部（１３）とを備えており、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線（Ｓ２）の箇所のほか、周方向の少なくとも一箇所（Ｓ１，Ｘ１，Ｘ２，Ｙ１，Ｙ２）においてそれぞれ縫合部を有する筒状であり、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前記前面覆い部分（１１）の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線（Ｓ１）に対し、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）が、全長にわたって前記後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていることを特徴とする、ショーツ等の衣料。

10

【請求項３】

下端に足繰り形成部（１５）を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成し下腹部を覆う伸縮性を有する前面覆い部分（１１）と、臀部を覆う伸縮性を有する背面覆い部分（１２）とを有する身頃（１４）と、前記前面覆い部分（１１）の下端（１６）と前記背面覆い部分（１２）の下端（１７）との間に配設され股間部を覆う身頃と一体型のまち部（１３）とを備えており、

前記身頃（１４）は、前記前面覆い部分（１１）の左右両側に背面覆い部分（１２）が一体に連続して設けられた筒状であり、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前記前面覆い部分（１１）の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線（Ｓ１）に対し、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）が、全長にわたって前記後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていることを特徴とする、ショーツ等の衣料。

20

【請求項４】

下端に足繰り形成部（１５）を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成し下腹部を覆う伸縮性を有する前面覆い部分（１１）と、臀部を覆う伸縮性を有する背面覆い部分（１２）とを有する筒状の身頃（１４）と、前記前面覆い部分（１１）の下端（１６）と前記背面覆い部分（１２）の下端（１７）との間に配設され股間部を覆う身頃と一体型のまち部（１３）とを備えており、

30

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線（Ｓ２）以外の周方向の少なくとも一箇所（Ｓ１，Ｘ１，Ｘ２，Ｙ１，Ｙ２）において縫合部を有する筒状であり、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前記前面覆い部分（１１）の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線（Ｓ１）に対し、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）が、全長にわたって前記後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていることを特徴とする、ショーツ等の衣料。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

40

【０００１】

本発明は、ショーツ、パンツ、水着、レオタード、ブリーフ、メンズタイツ、レディースタイツ等の衣料に係り、より詳しくは、特にヒップ下部の膨らみ体形へのフィット性に優れ、歩行時や屈み姿勢時等においてヒップ裾ラインがずり上がるのを防止し快適な履き心地のショーツ等の衣料に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来、この種のショーツ等の衣料においては、体形がウェストよりもヒップが大きいことから、一般的にウェスト周りよりもヒップ周りが大きいパターン（カッティング方法）が採用されている。すなわち、ショーツ等の衣料の展開状態において、例えば、図８～図

50

11に示すように、前面覆い部分（前身頃）1の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線S1に対し、背面覆い部分（後身頃）2の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線S2がこの後中心線S2の下方延長線を前中心線S1の下方延長線より次第に遠ざける下方広がり状態になるように設定されている（例えば、特許文献1～4参照。）。なお、図8～図11の各図において、3は前面覆い部分1の下端の内股前部と背面覆い部分2の下端の内股後部との間に配設されるまち部を示す。図8は特許文献1に記載のパンティの前身頃1、後身頃2、及びまち部3の展開平面図を、図9は特許文献2に記載のショーツの前身頃1、後身頃2、及びまち部3の展開平面図を、図10は特許文献3に記載のショーツの前身頃1、後身頃2、及びまち部3の展開平面図を、図11は特許文献4に記載のショーツの前身頃1の左右側縁に後身頃の左半分2aおよび右半分2bがそれぞれ一体に形成された身頃の展開平面図をそれぞれ示すものである。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開昭57-205501号公報（第1図）

【特許文献2】特開平7-207502号公報（図3）

【特許文献3】特開2000-325396号公報（図1）

【特許文献4】特開平11-347067号公報（図3）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

20

【0004】

確かに、ヒップ体形においてヒップ頂上部は広いので、ヒップ頂上部と対応するショーツ等の衣料のヒップ頂上部該当部位までは上記のように前面覆い部分（前身頃）1の前中心線S1に対して背面覆い部分（後身頃）2の後中心線S2が下方広がり状態になるように設定されていてもよい。しかしながら、ヒップ体形においてヒップ下部（ヒップ下部の膨らみ体形）は球の下半分の形状に近いので、ヒップ下部と対応するショーツ等の衣料のヒップ下部該当部位において、前面覆い部分（前身頃）1の前中心線S1に対して背面覆い部分（後身頃）の後中心線S2が下方広がり状態ではヒップ下部へのフィット性に欠け、このため、直立姿勢から椅子に座る姿勢や腰を曲げたり、屈む姿勢等に変えたりしたときにヒップ裾ライン（足口内周のほぼ後ろ半分）がずり上がり、また直立姿勢時にショーツ等の衣料のヒップ下部や臀溝部に相当する個所に弛み皺やだぶつきが発生しやすいという問題があった。

30

【0005】

本発明は、このような問題を解決するためになされたものであり、その目的とするところは、上記のようなショーツ等の衣料においてヒップ下部へのフィット性の向上、ヒップ裾ラインのずり上がり防止の確実性を図ることのできるショーツ等の衣料を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明のショーツ等の衣料は、請求項1に記載のように、発明の内容を理解し易くするために図1～3に付した符号を付けて説明すると、

40

下端に足繰り形成部（15）を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成し下腹部を覆う伸縮性を有する前面覆い部分（11）と、臀部を覆う伸縮性を有する背面覆い部分（12）とを有する身頃（14）と、前記前面覆い部分（11）の下端（16）と前記背面覆い部分（12）の下端（17）との間に配設され股間部を覆う身頃と一体型のまち部（13）とを備えており、

前記身頃（14）は、前記前面覆い部分（11）の左右両側に前記背面覆い部分（12）の左半分および右半分が形成されて、前記背面覆い部分（12）の左半分の左側縁と前記背面覆い部分（12）の右半分の右側縁との縫合部を有する筒状であり、

前記身頃（14）は、前記背面覆い部分（12）の左右方向中央部を上下方向に通る後

50

中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前記前面覆い部分（１１）の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線（Ｓ１）に対し、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）が、全長にわたって前記後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていることに特徴を有するものである。

【０００７】

本発明のショーツ等の衣料は、請求項２に記載のように、発明の内容を理解し易くするために図１～３に付した符号を付けて説明すると、

下端に足繰り形成部（１５）を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成し下腹部を覆う伸縮性を有する前面覆い部分（１１）と、臀部を覆う伸縮性を有する背面覆い部分（１２）とを有する筒状の身頃（１４）と、前記前面覆い部分（１１）の下端（１６）と前記背面覆い部分（１２）の下端（１７）との間に配設され股間部を覆う身頃と一体型のまち部（１３）とを備えており、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線（Ｓ２）の箇所のほか、周方向の少なくとも一箇所（Ｓ１，Ｘ１，Ｘ２，Ｙ１，Ｙ２）においてそれぞれ縫合部を有する筒状であり、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前記前面覆い部分（１１）の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線（Ｓ１）に対し、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）が、全長にわたって前記後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていることに特徴を有するものである。

【０００８】

また、本発明のショーツ等の衣料は、請求項３に記載のように、発明の内容を理解し易くするために図４～６に付した符号を付けて説明すると、

下端に足繰り形成部（１５）を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成し下腹部を覆う伸縮性を有する前面覆い部分（１１）と、臀部を覆う伸縮性を有する背面覆い部分（１２）とを有する身頃（１４）と、前記前面覆い部分（１１）の下端（１６）と前記背面覆い部分（１２）の下端（１７）との間に配設され股間部を覆う身頃と一体型のまち部（１３）とを備えており、

前記身頃（１４）は、前記前面覆い部分（１１）の左右両側に背面覆い部分（１２）が一体に連続して設けられた筒状であり、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前記前面覆い部分（１１）の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線（Ｓ１）に対し、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）が、全長にわたって前記後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていることに特徴を有するものである。

【０００９】

また、本発明のショーツ等の衣料は、請求項４に記載のように、発明の内容を理解し易くするために図９に付した符号を付けて説明すると、

下端に足繰り形成部（１５）を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成し下腹部を覆う伸縮性を有する前面覆い部分（１１）と、臀部を覆う伸縮性を有する背面覆い部分（１２）とを有する筒状の身頃（１４）と、前記前面覆い部分（１１）の下端（１６）と前記背面覆い部分（１２）の下端（１７）との間に配設され股間部を覆う身頃と一体型のまち部（１３）とを備えており、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線（Ｓ２）以外の周方向の少なくとも一箇所（Ｓ１，Ｘ１，Ｘ２，Ｙ１，Ｙ２）において縫合部を有する筒状であり、

前記身頃（１４）は、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前記前面覆い部分（１１）の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線（Ｓ１）に対し、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）が、全長にわたって前記後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの

状態に設定されていることに特徴を有するものである。

【0010】

上記構成によると、筒状に形成された身頃（14）は、背面覆い部分（12）の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線（S2）に沿って開いた展開状態において、前面覆い部分（11）の前中心線（S1）に対し、背面覆い部分（12）の後中心線（S2）が、全長にわたって、後中心線（S2）の下方延長線を前中心線（S1）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されているので、ショーツ等の衣料のヒップ下部該当部位周りをヒップ下部体形にフィットすべく絞ることができ、ヒップ下部体形の半球形状の下半分にフィットし、つまり背面覆い部分の下部がヒップ下部の膨らみ体形にぴったり合っ

10

て該下半分を絞り込むように深く包み込むことができ、また直立姿勢時にショーツ等の衣料のヒップ下部や臀溝部に相当する個所に弛み皺やだぶつきが発生することが無くなり、美しいヒップ裾ラインを出すことができる。しかも、請求項1～4の構成の記載から明らか

20

なとおり、身頃（14）を筒状に形成するにあたり、縫合箇所の数、縫合位置、縫合ラインの形状などに制約がなくなって自由に選択することができるほか、縫合をなくすこともでき、身頃（14）の外観デザインの自由度を向上させることができる。

【0011】

請求項1記載のショーツ等の衣料は、前記後中心線（S2）と下端（17）とが互いに交わる交点（J）と前中心線（S1）との間の寸法をBとし、前記下端（16）と下端（17）との間の寸法をCとしたとき、その比率 C/B を0.4～2.5の範囲内に設定するという構成を採用することができる。比率 C/B が0.4未満ではヒップの包む面積が小さくなり過ぎ、比率 C/B が2.5を超えるとヒップの包み込み面積が大きくなり過ぎるし、また足回りを希望の寸法に設定できなくなって効果を損ねる。なお、より好ましい範囲の方向としては、比率 C/B を0.8～1.5の範囲内に設定すればよい。

30

【0012】

また、足繰り形成部（15）の内周上のほぼ後ろ半分のヒップ裾ライン（15a）の前中心線（S1）に最も近い箇所と前中心線（S1）との間の寸法をAとし、前記後中心線（S2）と下端（17）とが互いに交わる交点（J）と前中心線（S1）との間の寸法をBとしたとき、その比率 B/A を1.6～6の範囲内に設定するという構成を採用することができる。比率 B/A が1.6未満ではヒップの包む面積が小さくなり過ぎ、不安定になり、比率 B/A が6を超えると下方窄まりが緩慢になり、立体感が出にくくなる。なお、より好ましい範囲の方向としては、比率 B/A を2～4の範囲内に設定すればよい。

40

【発明の効果】

【0013】

本発明によれば、ショーツ等の衣料のヒップ下部該当部位周りをヒップ下部体形にフィットすべく絞ることができるので、ヒップ下部体形の半球形状の下半分を深く立体的に包み込むことができ、ヒップ下部へのフィット性に優れ、従いヒップ裾ラインのずり上がりを確実に防止できるとともに、直立姿勢時にショーツ等の衣料のヒップ下部や臀溝部に相当する個所に弛み皺やだぶつきが発生することが無くなり、美しいヒップ裾ラインを出すことができて有利である。しかも、身頃を筒状に形成するにあたり、縫合箇所の数、縫合位置、縫合ラインの形状などに制約がなくなって身頃（14）の外観デザインの自由度を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明の一実施例を示すショーツの正面図である。

【図2】同ショーツの背面図である。

【図3】同ショーツの身頃及びまち部の展開平面図である。

【図4】本発明の他の実施例を示し、背面覆い部分12の後中心線S2に沿って開いた身頃及びまち部の展開平面図である。

【図5】図4のパンツの正面図である。

【図6】図4のパンツの後方斜視図である。

【図 7】本発明のさらに他の実施例を示し、背面覆い部分 1 2 の後中心線 S 2 に沿って開いた身頃及びまち部の展開平面図である。

【図 8】従来例のパンティの前身頃、後身頃、及びまち部の展開平面図である。

【図 9】他の従来例のショーツの前身頃、後身頃、及びまち部の展開平面図である。

【図 10】更に他の従来例のショーツの前身頃、後身頃、及びまち部の展開平面図である。

【図 11】更に又、他の従来例のショーツの前身頃に後身頃を一体に形成した身頃の展開平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

10

本発明の好適な実施形態を図面に基づき説明する。

【0016】

図 1～3 において、本発明の衣料の一実施例を示すショーツ 10 は、下腹部を覆う前面覆い部分 1 1 と、この前面覆い部分 1 1 と一体に形成され臀部を覆う背面覆い部分 1 2 とを有する身頃 1 4 と、前面覆い部分 1 1 の下端 1 6 と背面覆い部分 1 2 の下端 1 7 との間に配設されて股間部を覆う身頃と一体型のまち部 1 3 とを主要構成部材としてなる。身頃 1 4 の前面覆い部分 1 1 及び背面覆い部分 1 2 と、まち部 1 3 はストレッチ生地からなる。

【0017】

図 3 のように前面覆い部分 1 1 はこれの下端 1 6 に足繰り形成部 1 5 を左右対称に上方へ向けて入り込む湾状に形成している。足繰り形成部 1 5 の内周上のほぼ後ろ半分のヒップ裾ライン 1 5 a は前面覆い部分 1 1 の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線 S 1 に向けて突出する凸形の円弧状の曲縁に形成している。

20

前面覆い部分 1 1 はこの左右両側にそれぞれ背面覆い部分 1 2 の左半分 1 2 a および右半分 1 2 b がそれぞれ一体に形成される。

【0018】

身頃 1 4 は、背面覆い部分 1 2 の左右方向中央部を上下方向に通る後中心線 S 2 に沿って開いた展開状態において、前面覆い部分 1 1 の左右方向中央部を上下方向に通る前中心線 S 1 に対し、背面覆い部分 1 2 の後中心線 S 2 がこの後中心線 S 2 の下方延長線を前中心線 S 1 の下方延長線に近づける下方窄まりの状態となるように設定されている。なお、背面覆い部分 1 2 の左半分 1 2 a の左側縁 1 2 a-1 と背面覆い部分 1 2 の右半分 1 2 b の右側縁 1 2 b-1 とは、図 3 において実線で示すように背面覆い部分 1 2 の後中心線 S 2 と合致する直線状に形成して下窄まりにしているが、このように直線状に形成する場合に限られず、この直線状に代えて、例えば左側縁 1 2 a-1 のほぼ下半部分及び右側縁 1 2 b-1 のほぼ下半部分はヒップ下部体形の曲縁に可及的に沿うように外方凸形の緩やかな円弧状の曲縁よりなる下窄まりであってもよい。

30

【0019】

このように裁断された身頃 1 4 は、図 2 に示すように背面覆い部分 1 2 の左半分 1 2 a の左側縁 1 2 a-1 と背面覆い部分 1 2 の右半分 1 2 b の右側縁 1 2 b-1 とを縫い合わせることで筒状に形成し、背面覆い部分 1 2 の左半分 1 2 a 及び右半分 1 2 b の各下端 1 7 とまち部 1 3 をつなぐことにより、図 1 に示すように左右の足繰り形成部 1 5 とまち部 1 3 の左右の端縁 1 8 とで左右の足口 1 9 が形成される。

40

【0020】

身頃 1 4 の前面覆い部分 1 1 及び背面覆い部分 1 2 のウェスト部 20, 21、および足口 1 9 まわりにはそれぞれ、やや幅広のストレッチレース、生地、ゴム（幅の狭いタイプは効果が少ない）等の伸縮性带状材 22 を縫い付ける。

【0021】

上記のように縫製されたショーツ 10 は、身頃 1 4 の筒状形成時、背面覆い部分 1 2 の後中心線 S 2 に沿って開いた展開状態で、前面覆い部分 1 1 の前中心線 S 1 に対し、背面覆い部分 1 2 の後中心線 S 2 がこの後中心線 S 2 の下方延長線を前中心線 S 1 の下方延長

50

線に近付ける下方窄まりの状態に設定したので、未着用状態でヒップ部裾周りを絞るように立体的に作ることができる。したがって、着用時にはヒップ下部体形にフィットし、ヒップ裾ライン15aがヒップの臀溝部にフィットしてヒップ下部を深く十分に包み込むことができることになり、人が直立姿勢から椅子に座る姿勢や腰を曲げたり、屈む姿勢等に変えたりしたときに生じるヒップ裾ライン15aのずり上がりをよく防止できる。また、直立姿勢時にショーツ等の衣料のヒップ下部や臀溝部に相当する個所に弛み皺やだぶつきが発生することも無くなり、美しいヒップ裾ラインを出すことができる。

【0022】

上記展開状態において、前面覆い部分11の前中心線S1に対し、背面覆い部分12の後中心線S2がこの後中心線S2の下方延長線を前中心線S1の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態となるように設定されていると、ヒップ部分および足回りの寸法はバイアス方向に確保することになるが、前面覆い部分11、背面覆い部分12、まち部13がストレッチ生地からなるので、着用に支障を来たすようなことはない。

10

【0023】

また、図3において、Aの寸法（ヒップ裾ライン15aの前中心線S1に最も近い箇所と前中心線S1との間の寸法、以下同じ）を短く、Cの寸法（下端16と下端17との間の寸法、以下同じ）を長くすることでヒップを脇から包み込む効果が得られる。Bの寸法（後中心線S2と内股後部17とが互いに交わる交点Jと前中心線S1との間の寸法、以下同じ）はヒップの包み込み量を確保するうえでは大きいことが好ましいが、B寸法が大き過ぎると、前中心線S1に対する後中心線S2の下方窄まりの状態が少なくなり立体感が無くなる。

20

【0024】

したがって、所定の足繰り寸法が決まれば、次に上記A、B、Cの寸法も考慮して理想的なパターンを得る必要がある。

すなわち、比率 B/A が小さいとヒップの包む面積が小さくなり過ぎ、不安定になる。逆に比率 B/A が大き過ぎると、下方窄まりが緩慢になり、立体感が出にくくなる。したがって、比率 B/A を1.6～6の範囲内、より好ましくは比率 B/A を2～4の範囲内に設定するとよい。

また、比率 C/B が小さ過ぎると、比率 B/A が小さい場合と同様にヒップの包む面積が小さくなり過ぎる。逆に比率 C/B が大き過ぎると、ヒップの包み込み面積が大きくなり過ぎるし、また足回りを希望の寸法に設定できなくなるので、効果を損ねる。したがって、比率 C/B を0.4～2.5の範囲内、より好ましくは比率 C/B を0.8～1.5の範囲内に設定するとよい。

30

具体的には、その一例として、寸法Aを7cm、寸法Bを18cm、寸法Cを20cm、寸法D（背面覆い部分12の左側縁12a-1の最上端部と前面覆い部分11の前中心線S1との間の寸法、背面覆い部分12の右側縁12b-1の最上端部と前面覆い部分11の前中心線S1との間の寸法、以下同じ）を25cm、寸法E（足繰り形成部15の全長寸法）＝33cm、F（まち部13の左端縁18の寸法、右端縁18の寸法）を12cm、寸法G（まち部13の中央部の上下寸法）を14cmに設定する。

【0025】

40

なお、上記実施例において、図3に示す身頃(14)は、前面覆い部分(11)の左右両側に背面覆い部分(12)の左半分および右半分が一体に形成されて、前記背面覆い部分(12)の左半分の左側縁と前記背面覆い部分(12)の右半分の右側縁とを縫合することにより筒状に形成したが、これに限らずに、次のように構成してもよい。

すなわち、身頃(14)は、背面覆い部分(12)の後中心線(S2)の箇所の縫合のほか、前面覆い部分(11)の前中心線(S1)の箇所、あるいは図3の点線で示すように前面覆い部分(11)の左右両側(X1, X2またはY1, Y2)の箇所、あるいはその他の適宜の箇所で縫合する身頃であってもよい。

要するに、身頃(14)は、背面覆い部分(12)の後中心線(S2)の箇所のほか、周方向において少なくとも一箇所(S1, X1, X2, Y1, Y2)縫合され、かつ、

50

背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前面覆い部分（１１）の前中心線（Ｓ１）に対し、背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）がこの後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていればよいものである。

【００２６】

また、本発明の対象とする衣料は、図３に示す身頃（１４）に限らず、図４に示すような身頃（１４）であってもよい。

すなわち、図４に示す身頃（１４）は、前記前面覆い部分（１１）の左右両側に前記背面覆い部分（１２）が一体に設けられて図５及び図６に示すように縫合箇所のない筒状に形成する身頃であってもよい。

10

このような身頃（１４）であっても、図４に示すように、背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）に沿って切り、これを開いた展開状態において、前面覆い部分（１１）の前中心線（Ｓ１）に対し、背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）がこの後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていれば、上記図１～３に示すショーツと同様の作用効果が得られるものである（なお、この図５及び図６に示すパンツは、太股覆い部分２４をそれぞれ縫合させる構成のものを示している。）

【００２７】

また、上記まち部１３は、前面覆い部分１１の下端１６に連続させて一体に設ける身頃と一体型のまち部にしたが、本発明の対象とする衣料はこれに限られず、前面覆い部分１１の下端１６とは縫合として、背面覆い部分１２の下端１７に連続させて一体に設ける身頃と一体型のまち部でもよいし、まち部１３は前面覆い部分１１の下端１６と背面覆い部分１２の下端１７の双方に連続させて設ける身頃と一体型のまち部でもよいものである。

20

【００２８】

上記まち部１３が、前面覆い部分１１の下端１６と背面覆い部分１２の下端１７の双方に連続させて設ける身頃と一体型のまち部の場合は、図７に示すように、身頃（１４）は、前面覆い部分（１１）の前中心線（Ｓ１）の箇所においても、背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）の箇所においても一体に形成して縫合しないようにするほうが作りやすく好ましい。そして、図７中の点線で示すように、前面覆い部分（１１）の左右両側（Ｘ１，Ｘ２）または背面覆い部分（１２）の左右両側（Ｙ１，Ｙ２）の箇所で少なくとも縫合するようにするのが好ましい。

30

要するに、この場合においても、身頃（１４）は、背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）以外の周方向の箇所で縫合され、かつ、背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）に沿って切り開いた展開状態において、前面覆い部分（１１）の前中心線（Ｓ１）に対し、背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）がこの後中心線（Ｓ２）の下方延長線を前中心線（Ｓ１）の下方延長線に近付ける下方窄まりの状態に設定されていればよいものである。

【００２９】

また、本発明の対象とする衣料の身頃（１４）は、図１・図２・図５・図６に示すウェスト部（２０，２１）側において、身頃（１４）のだぶつきを防止してすっきりした外觀デザインにするために、前記背面覆い部分（１２）の後中心線（Ｓ２）に沿って開いた展開状態において、前記後中心線（Ｓ２）の上部側を前記前中心線（Ｓ１）側に縮める形状にしてもよいものである。

40

【００３０】

また、本発明の対象とする衣料は、水着、レオタード、メンズ用あるいはレディース用のタイツ、男性用のブリーフなどにも同様に適用することができ、さらにまた身頃１４にはダーツを施すようにしてもよい。

【符号の説明】

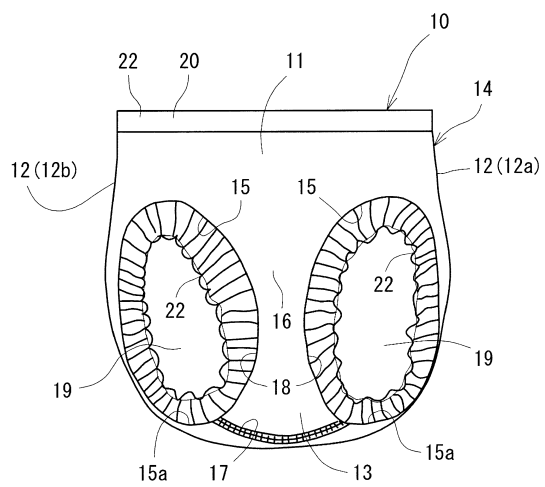
【００３１】

Ｓ１ 前中心線

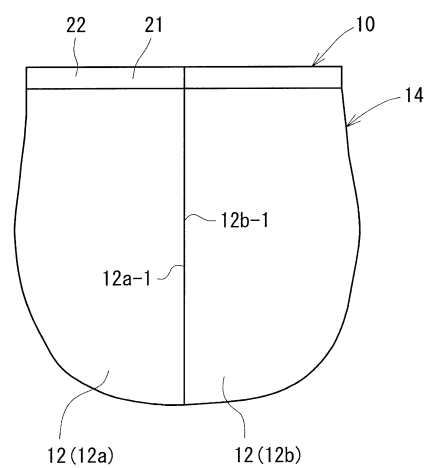
50

- S 2 後中心線
- 1 0 ショーツ
- 1 1 前面覆い部分
- 1 2 背面覆い部分
- 1 2 a 左半分
- 1 2 a-1 左半分の左側縁
- 1 2 b 右半分
- 1 2 b-1 右半分の右側縁
- 1 3 まち部
- 1 4 身頃
- 1 5 足繰り形成部
- 1 5 a ヒップ裾ライン
- 1 6 前面覆い部分の下端
- 1 7 背面覆い部分の下端

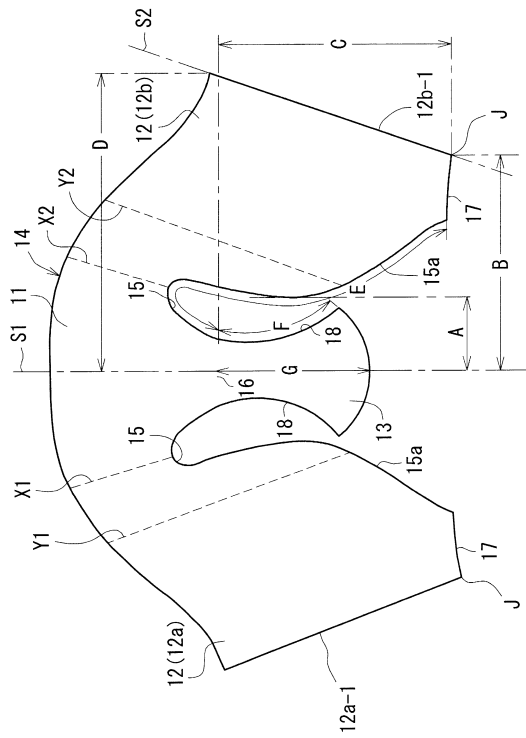
【図 1】



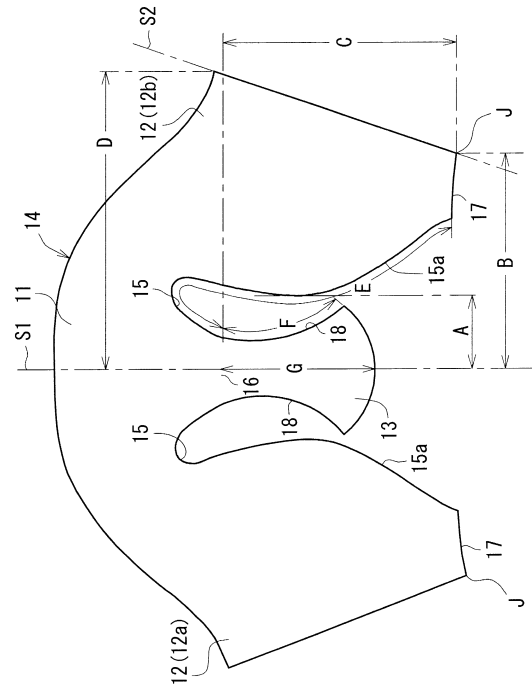
【図 2】



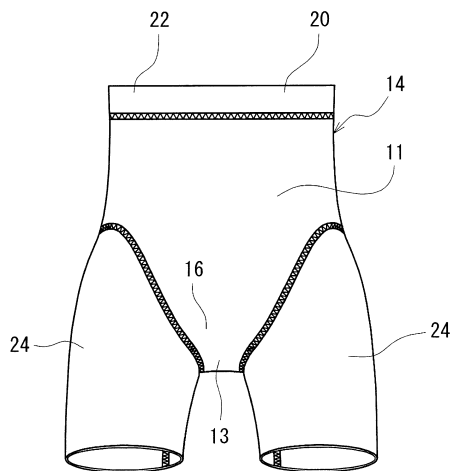
【図 3】



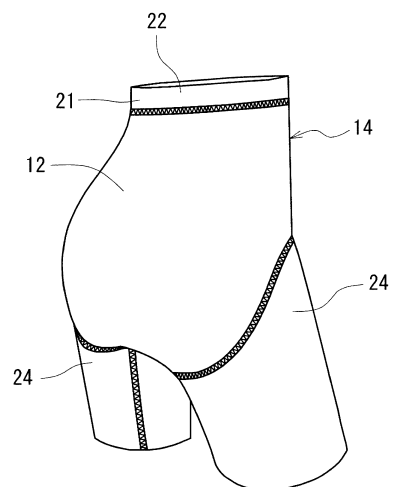
【図 4】



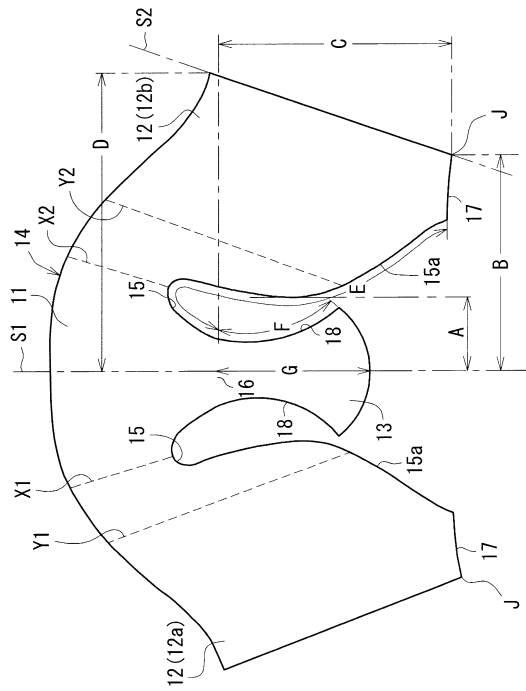
【図 5】



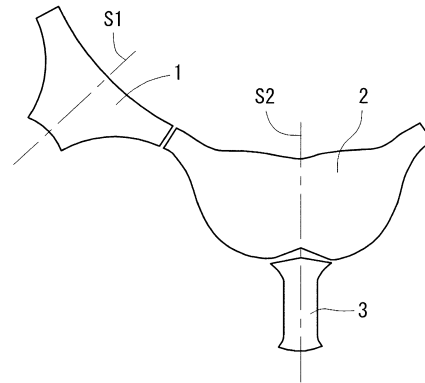
【図 6】



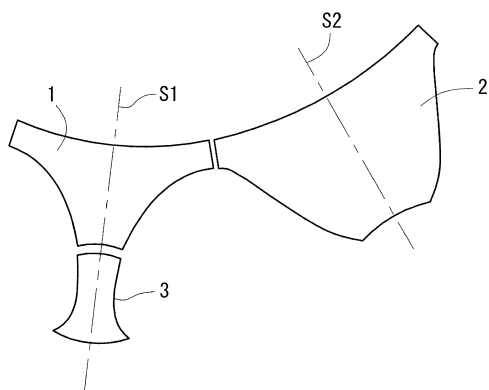
【図 7】



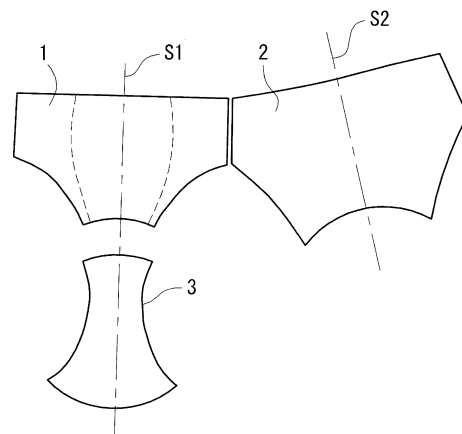
【図 8】



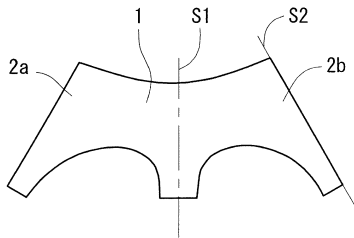
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平10-259504 (JP, A)
国際公開第2012/023208 (WO, A1)
実開昭55-042030 (JP, U)
特開2013-007123 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A41B 9/02- 9/04